

秋の日記

高野ユリカ



〔会期〕 2024年 9月 20日(金) — 30日(月)

10 | 17時 入場無料

〔会場〕 千代田区立 日比谷図書文化館 1F 特別展示室

〔主催〕 高野ユリカ

〔展示デザイン〕 tandemstudy (大村高広 + 佐藤熊弥)

〔グラフィックデザイン〕 星野哲也

〔助成〕 公益財団法人窓研究所

〔交通アクセス〕

〒100-0012 東京都千代田区日比谷公園 1-1-4

東京メトロ丸の内線・日比谷線「霞ヶ関駅」B2出口より徒歩約3分

都営地下鉄三田線「内幸町駅」A7出口より徒歩約3分

東京メトロ千代田線「霞ヶ関駅」C4出口より徒歩約3分

JR新橋駅日比谷口より徒歩約10分

◎ 駐輪場・駐車場はございません ◎ 危険物の持ち込みは厳禁です



Google Map

〔問合せ〕 www.yurikakono.com

秋の日記

高野ユリカ

《秋の日記》は、建築家・白井晟一（1905-1983）の秋田県湯沢市の建築群をめぐり私が書いた写真日記である。

この日記では、白井と親交のあった作家・林芙美子（1903-1951）の旅行記の身体の身振りを做い、その土地にとつてあり得たかもしれない身体の演技を試みた。その空間における過去や未来を想像することは、私にとつての「わからない」ものに眼差しを向けるときの手がかりになる。「彼女」の身体を型（かた）として、白井の建築を見てみたいと思った。

大文字の歴史（History, his-story）として残ってこなかった、取りこぼされた個人史や生活史（Her-story）の視点から、いまこの時間ではない、百年前や百年先の何かに出会うように、建築空間を想像して眺めてみたい。白井と林の二人の思想に共通する「民衆」への眼差しや「生活」への慈しみに共鳴し、このプロジェクトを通して私なりの形で応答してみる。

〔会期〕 2024年 9月 20日（金）—— 30日（月）
10 — 17時 入場無料

〔会場〕 千代田区立 日比谷図書文化館 1F 特別展示室

〔主催〕 高野ユリカ

〔展示デザイン〕 tandemstudy（大村高広＋佐藤熊弥）

〔グラフィックデザイン〕 星野哲也

〔助成〕 公益財団法人窓研究所

〔交通アクセス〕

〒100-0012 東京都千代田区日比谷公園 1-1-4

東京メトロ丸の内線・日比谷線「霞ヶ関駅」B2出口より徒歩約3分
都営地下鉄三田線「内幸町駅」A7出口より徒歩約3分
東京メトロ千代田線「霞ヶ関駅」C4出口より徒歩約3分

JR新橋駅日比谷口より徒歩約10分

◎ 駐輪場・駐車場はございません ◎ 危険物の持ち込みは厳禁です



Google Map

〔問合せ〕 www.yurikakono.com

十一月三十日

日本航空一六一便乗る。ガタシと首が
落ちる。起るとたりやはり秋だった。
コンビアードに流れてくる何物受けてソ
空飛出るとキラキラと粉雪だった。
風が強くと雪が横に舞っていた。
秋の人にしてみれば11月なのに今年
はととも暖かいという。初雪も遅かた
さうだ。車に乗り湯沢へと向かう。
十時に着く。酒造会館にてT氏の
E氏と会う。